

Title	情報ネットワーク化の進展と企業戦略
Sub Title	
Author	岡崎稔(Okazaki, Minoru) 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1992
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1992年度経営学 第906号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001992-0906

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	岡崎 稔	主査	柳原 一夫
		副査	古川 公成
			柴田 典男
所属	柳原 一夫 研究室		

情報ネットワーク化の進展と企業戦略

情報技術が経営に利用されるようになってから、約40年が経過している。情報技術は、当初、事務の合理化・省力化のために利用されていたが、現在では、企業の競争力を高める戦略的な武器へと変化し、その重要性は、多くの経営者に認識されている。情報技術が、その戦略的な重要性を高めた背景には、情報技術の急速な発展がある。特に、通信技術の発達は、企業の情報ネットワーク構築を可能にし、情報ネットワークの構築により、競合他社との差別化を図り、顧客を囲い込む「情報ネットワーク戦略」という言葉も聞かれるようになった。

しかし、情報ネットワークは、企業の戦略として重要であると同時に、社会的な基盤としての重要性を持つものである。そのため、近年は、情報ネットワークの仕様を標準化するためのEDI (Electronic Data Interchange: 電子データ交換) が注目されている。

本研究では、医薬品業界、スポーツ用品業界、及びメガネレンズ業界における情報ネットワーク化の事例研究によって、情報ネットワーク化の進展に関する考察を行うものである。研究の結果、業界に情報ネットワークが普及するにつれて、ユーザーは、情報ネットワークに、公共性を求めるようになることがわかった。そして、情報ネットワーク間の競争は、情報ネットワークを展開する企業に他社との協調を重視する戦略への転換を促し、情報ネットワークのインフラ化を進展させる方向に働くことが確認された。このように、情報ネットワークのインフラ化が進展するなかで、企業経営に於いては、高度な情報システム開発よりも、情報技術を活用できる体制にするための業務の再構築、及び、情報システムに蓄積された情報の有効活用を図ることが重要であるという結論を得た。